

夏祭り

まだまだ明るい夕方の公園
四つのカレー鍋の前 四列の人
いくつもの手持ち花火思い思いに
近所の子供達こんなにかいたのか
ともした提灯がオレンジ色に光り
僕たちは正面に向き直る

滝のように流れてく
大きな太鼓たたく音が
夜空から反射して 体の中流れる

公園の端の方では 金魚すくいと
ヨーヨーすくいをして はしゃぐ子供達
ヨーヨーすくえなくて泣いてる子に
それをあげている男の子がいる
ともした提灯がひとたび消されたとき
僕たちは正面に向き直る

滝のように落ちてゆく
大きな仕掛け花火が最後
綺麗で儚い光放ち 夢のように流れる

夜風に揺れてる
光のカーテン
儚く消えてく
綺麗な夢のしずく

流れ落ちた後にふたたびのあかり
今度は帰り支度のためのあかり
心の奥に残ったその余韻は
この夏の夜が作り彩る奇跡
三人で手を繋いで帰る道
夏祭りの夜は特別なひととき

静寂の中で溶けゆく笑い
熱気に包まれゆく夢の時間